

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6022 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル22F Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

No.sfa0002 (2015.4.1)

**第14回（2014年度）佐治敬三賞は
「鈴木俊哉 リコーダー リサイタル
《細川俊夫ポートレート》 および
「ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃」に決定**



「鈴木俊哉 リコーダー リサイタル《細川俊夫ポートレート》」



「ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃」

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤剛、鳥井信吾）は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第14回（2014年度）受賞公演を「鈴木俊哉 リコーダー リサイタル《細川俊夫ポートレート》」および「ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃」の2公演に決定しました。

●選考経過

応募のあった2014年実施公演について2015年2月13日（金）東京・赤坂のANAインターコンチネンタルホテル東京において、選考委員7名により選考会を開催、慎重な審議の結果、第14回（2014年度）佐治敬三賞に「鈴木俊哉 リコーダー リサイタル《細川俊夫ポートレート》」および「ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃」の2公演が選定され、3月31日（火）理事会において正式に決定された。

- 賞金は200万円。今回は同時受賞につき各100万円が贈られる。
- 選考委員は下記の7氏。

礒山 雅・伊藤 制子・伊東 信宏・岡部 真一郎・植崎 洋子
松平 あかね・水野 みか子

(敬称略・50音順)

なお、水野委員は「ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃」において自らの作品を出品した作曲家であったため、規定により公演関係者として当該企画の審議および選定にあたり退席し、6委員による選定を行った。

●「鈴木俊哉 リコーダー リサイタル《細川俊夫ポートレイト》」

<贈賞理由>

リコーダー奏者の鈴木俊哉によるリサイタル《細川俊夫ポートレイト》は、日本を代表する作曲家の初期から現在までを俯瞰し、その作風と音楽思想をリコーダーを通じて表現しようとする果敢なものであった。鈴木は以前からその確かな技巧と高い音楽表現によって評価を得てきたが、今回のリサイタルでは長年コラボレーションを重ねてきた細川作品を的確に理解し、独自の思想に裏打ちされた豊かな音楽世界を表現しえたという点で、注目に値する演奏会となっていた。全6曲中リコーダーのオリジナル曲は2曲だったが、委嘱初演となった、声（太田真紀）とバス・リコーダー、弦楽四重奏曲（辺見康孝、亀井庸州、安田貴裕、多井智紀）による《つれなき人》は、会場となった淀橋教会・小原記念チャペルの空間をいかし、弦を四隅に配し、水の音なども活用するなど、シャーマニズムの儀式性をねらったという細川作品を魅力的に表現していた。

選考会では、「作曲家によるトークと演奏との適切な時間配分が必要だったのではないか」「《つれなき人》では教会の空間をいかしたより周到な準備が望ましかった」などの意見も出たが、現代作曲家との長きにわたる共同作業の成果が総じて高く評価され、佐治敬三賞にふさわしい演奏会として受賞に至った。今回はひとりの作曲家のみに焦点を当てたリサイタルだったが、選考委員からは、「さらに多彩なリコーダー作品の紹介に尽力していただきたい」という期待も寄せられた。

<公演概要>

名 称：鈴木俊哉 リコーダー リサイタル《細川俊夫ポートレイト》

日 時：2014年2月11日（火）15：00

会 場：淀橋教会・小原記念チャペル

曲 目：細川俊夫作曲

線 I b（1984/2000）リコーダーソロ

断章 II（1989/2012 リコーダー版 初演）リコーダー&弦楽四重奏

鳥たちへの断章 III b（1990/97）笙&リコーダー

垂直の歌 I b（1995/96 リコーダー版）リコーダーソロ

待雪草（2009）リコーダー&箏

つれなき人（2013/14 初演）声とバス・リコーダー、弦楽四重奏

出 演：鈴木俊哉（リコーダー）、吉村七重（箏）、宮田まゆみ（笙）

太田真紀（ソプラノ）

弦楽四重奏（辺見康孝、亀井庸州、安田貴裕、多井智紀）

主 催：スタジオ コンモート

協 力：プロ アルテ ムジケ

● 「ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃」

<贈賞理由>

「ニンフェアール」は愛知県を拠点とする団体で、同県にゆかりのある作曲家・演奏家を国内外から招聘し、毎回趣向を凝らした企画を行ってきた。7月20日名古屋市の宗次ホールで開催された第10回公演『東洋と西洋の絃』はギターと箏のみという異色の楽器編成による演奏会である。古典のほか武満徹、伊福部昭作品などを織り交ぜながら、国内外の作曲家による良質な新作初演を提供する好企画であった。

機器による音量増幅や電子変調を行わなかったにもかかわらず、音色の実験という意味で稔りある作品が揃ったことは特筆に値する。とりわけエベルト・バスケス「浮世絵～庄野の驟雨」は、撥弦楽器特有のノイズを逆手に取って表現となす着眼にすぐれ、伊藤美由紀「絃の独白」は二つの楽器のひずんだ音色を調合し、より複雑な音響を生み出した点が秀逸であった。

古典から現代までを俯瞰する幅広い選曲だけに、演奏には確固とした技術と柔軟性が求められるが、現代音楽演奏に定評のある佐藤紀雄（ギター）と、若手奏者木村麻耶（十三絃箏、二十絃箏、二十五絃箏）による演奏の水準は極めて高いものであった。惜しむらくは箏の演奏に西洋寄りかつ現代的な感性が強く、和洋の変則的な楽器編成によってアンサンブルの意味を問いた다는という意味では驚きがなかった点である。だがその一方で奏者二人のコラボレーションは緊密であり、選曲センスと演奏レヴェルの両面でバランスがとれて、極めて充実した内容であった。同演奏会の成果は名古屋の音楽界にとどまらず、わが国の音楽文化全体に一石を投じ得る。よって今年度の佐治敬三賞を贈呈する。同団体の今後益々の発展を期待したい。

<公演概要>

名 称：ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃

日 時：2014年7月20日（日）17：00

会 場：宗次ホール

曲 目：武満 徹／「ギターのための12の歌」より（1977）

作者不詳／「乱」十三絃箏の為の

田中範康／「2つの存在」ギターと十三絃箏のための（2014）世界初演

エベルト・バスケス／「浮世絵～庄野の驟雨」

ギターと二十五絃箏の為の（2013）世界初演

水野みか子／「ベリーの館」ギターの為の（2014）世界初演

伊福部 昭／「物云舞」二十絃箏の為の（1979）

伊藤美由紀／「絃の独白」ギターと二十五絃箏の為の（2014）世界初演
ヘンデル（ラゴヤ編曲）／「シャコンヌ」ギターと二十五絃箏の為の

出 演：佐藤紀雄（ギター）、木村麻耶（箏）

主 催：ニンフェアール

共 催：宗次ホール

後 援：名古屋芸術大学音楽学部

以 上

(ご参考)

佐治敬三賞について

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤剛、鳥井信吾）は、故・佐治敬三（サントリー元会長、サントリー音楽財団元理事長）の功績を記念して、2001年度（平成13年度）から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は200万円です。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては鳥井音楽財団（現サントリー芸術財団）を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

1999年11月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたりました。

これまでの受賞公演

第1回（2001年度）

「篠崎史子 ハープの個展 VIII ～新たな領域を求めて～」

2001年10月19日 東京文化会館 小ホール

「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ

～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」

2001年8月31日 横浜みなとみらいホール

第2回（2002年度）

「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」

2002年9月17日 東京オペラシティ リサイタルホール

第3回（2003年度）

「現代の音楽展2003 室内オーケストラの領域 III」

2003年3月17日 東京文化会館 小ホール

第4回（2004年度）

「三井の晩鐘」

2004年10月24日 イシハラホール

第5回（2005年度）

「next mushroom promotion vol. 8 『細川俊夫～50年のランドスケープ』」

2005年10月15日 ムラマツリサイタルホール新大阪

第6回（2006年度）

「武生国際音楽祭2006」

2006年9月2日～10日 越前市文化センター 他

第7回（2007年度）

「フランス現代音楽からの潮流～井上麻子×藤井快哉 DUO」

2007年11月17日 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター

第8回（2008年度）

「実験室 vol.2 『偽のアルレッキーノ／カンパネッロ』」

2008年3月27日・28日 ミレニアムホール

第9回（2009年度）

「クロノイ・プロトイ 第5回作品展～弦楽四重奏の可能性」

2009年12月9日 東京オペラシティ リサイタルホール

第10回（2010年度）

「井上郷子^{きとこ}ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」

2010年2月28日 東京オペラシティ リサイタルホール

「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」

2010年12月10日 東京文化会館 小ホール

第11回（2011年度）

「林千恵子メゾソプラノ・リサイタル『アペルギス&グロボカール』」

2011年7月27日 門仲天井ホール

「児玉桃ピアノ・ファンタジーvol.1」

2011年9月17日 京都府立府民ホール “アルティ”

2011年9月19日 東京文化会館 小ホール

第12回（2012年度）

「kuniko plays reich in Kyoto」

2012年3月18日 京都芸術センター 講堂

「Sep.5 2012 Thanks to John Cage」

2012年9月5日 サントリーホール ブルーローズ

第13回（2013年度）

「東京現音計画#01～イタリア特集I：

コンポーザーズセレクション1・杉山洋一」

2013年9月13日 杉並公会堂 小ホール

「とうほうきたん東方綺譚 “Nouvelles Orientales de Marguerite Yourcenar”」

2013年10月26日 津田ホール

第15回（2015年度）「佐治敬三賞」応募について

2015年1～6月実施公演の応募受付は終了しました。

2015年7～12月実施公演の応募方法は以下のとおりです。

- ・対象公演 2015年（平成27年）7月1日から12月31日の間に国内で実施される音楽を主体とする公演。
- ・応募方法 所定の応募用紙にて応募いただきます。公演の記録映像、録音、印刷物などがある場合は資料として提出いただく場合があります。応募要項・用紙は、住所・氏名・電話番号を明記の上、郵送またはFAXにてサントリー芸術財団までご請求下さい。また財団ホームページからもダウンロードできます。
- ・応募期間 2015年4月1日（水）から5月31日（日）

・お問合せ先 サントリー芸術財団音楽事業部
〒107-6022
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル22階
私書箱509号
電 話 (03) 3582-1355
F A X (03) 3582-1350
<http://suntory.jp/sfamusic/>

以 上